

地研通信

発行人 茂木陽一
編集人 森岡洋
発行所 三重短期大学地域問題
総合調査研究室
津市一身田中野字蔵付157番地
〒514-01 TEL(0592)32-2341

題字 岡本祐次学長

伊賀地域の生涯学習推進状況

東福寺一郎・水谷 勇

はじめに

本稿は、昨年度、筆者両名が参画した三重県労働者福祉協議会の「勤労者の生涯教育プラン検討委員会」が行った勤労者の生涯学習に関する実態調査と上野市、名張市に対するヒアリング調査を踏まえ、今年度自主研究として、新たに行なった調査研究を踏まえて執筆したものである。今年度は、自治体の社会教育行政を中心とした現状と課題を把握するための独自のアンケート調査をこの地域の全市町村に対して実施するとともに、重点地域として伊賀町・阿山町にヒアリング調査を行い、この地域における生涯学習の現状と振興上の行政課題を明らかにしようとする研究を行った。二年間にわたる研究の集大成として、以下にその概要を述べる。

(1) 伊賀・上野地域の概況

伊賀・上野地域には上野市、名張市など2市3町2村が含まれる。地域全体では公民館が平均14館存在するが、伊賀町ではすべて単独館で28館あり、大山田村も27館と、この2町村で平均を引き上げている。また、単独館が占める割合は71.4%と、他の地域には例をみない多さである。公民館職員の平均は28.9人で、このうち専任職員比率は15.8%であり、職員体制が充実しているのは市部の上野市と名張市である。

公民館等の公的社会教育で開設されている教室・講座の中で、成人を対象とした教室・講座は平均27講座、平均参加者数744.4人にのぼる。特に、参加者数、開設数とも上野市が多く、郡部では伊賀町が多い。女性を対象とした教室・講座は平均18.3講座で、平均669人が参加している。上野市、名張市、伊賀町において講座や参加者数が多い。特に上野市は100講座1,915人と極めて多い。高齢者を対象とした教室・講座については、平均8.6講座が開設され、471人が参加している。中でも、

参加者数で名張市が、開設数で上野市が多い。

公立図書館は、上野市、名張市にあり、蔵書冊数は合計303,956冊である。名張市立図書館は近鉄名張駅の東側の高台にあり、郷土資料の充実、利用度の高さで目を見張るものがある。上野市には、点字図書館があり、目の不自由な方に点字およびテープ図書の貸し出しを行っている。

生涯学習推進のための組織があるのは、上野市、青山町、大山田村の3つである。名張市は、社会教育委員会議の「名張市生涯学習基本構想」に基づき、推進組織の設置を検討中であると回答している。また、上野市では、生涯学習推進委員会において「生涯学習推進大綱」を検討中である。

今日、平日の昼間に事業展開しているだけでは真に住民の生涯学習振興を図ることはできなくなってきている。こうした問題点を配慮して、高齢者と家庭婦人だけが対象となりがちな公民館講座などの改善に取り組む自治体も少なくはない。例えば、名張市で、男の料理教室を開催するほか、就労を希望する女性への「パートタイム・カウンセリング」を実施し、アイリスプラン推進地域講座では働く女性の問題を取り上げるなど、勤労者向け学習プログラムの開発に力を入れている。大山田村では、職業準備を兼ねたコンピュータ教室を行っている。上野市、阿山町、青山町、名張市では、図書館等の施設の土・日開館を実施し、平日も名張市では夜6時まで、青山町では夜10時までの開館を実現している。ただし、いずれも専門職員の時間外での配置はできていない。こうした時間外利用の便をどうはかるかという問題に対して、名張市、青山町、大山田村、阿山町では、自主サークルを育成し、住民が自主運営する力をつけて乗り越えてくれることを期待している。また、イベント等の土・日開催には、名張市、阿山町、大山田村が行っている。

また、上野市・名張市の特徴として文化人を一

定数擁しており、文化協会の活動が他よりも活発なことが挙げられる。現状では、こうした豊富な文化人層を行政が生かし切れているとはいえ、しかも文化人内部の対立、上野と名張の対立など、解決すべきだが一朝一夕にはいかなない問題を含んでいるが、この地域の生涯学習の発展を考えるとき考慮すべき視点の一つである。

なお、上野市では、公民館運営審議会委員に勤労者住民を選定するなど、勤労住民の意見・要求が反映するように努めている。

悩みとしては、名張市、大山田村では講座・イベントの参加者数の低迷、上野市では地元企業との連携が難しいこと、青山町では講師・指導者不足が指摘された。この地域だけのことではないが、総じて行政の人事配置が専門的特殊的技術と知恵と経験を要するこの分野の特殊性を配慮したものになりきれておらず、行政の人事政策を改善し、生涯学習のエキスパートを作り出すくらいの思い切った工夫が求められていると思われる。

(2) 上野市の概況

上野市は、人口61,508人、面積195.26㎢で、伊賀盆地の中心都市として歴史のある街であるが、1965年末開通した名阪国道で一躍内陸工業地帯として脚光を浴び、近代工業が相次いで進出し、今日に至っている。

市民の教育熱は高く、文化活動も盛んである。社会教育面では、各種団体、サークルが活躍し、市民展、夏季講座、演劇、音楽など郷土を明るくする運動、婦人教室、青年学級、土曜講座など多岐にわたっている。1993年度の公民館努力目標は「1. 生活文化の創造をめざす活力ある地域づくりの推進に努める」「2. 生涯学習の機会や場の拡充を図り内容の充実にも努める」「3. 人権問題啓発活動の推進に努める」「4. 社会関係団体の育成・支援に努める」の4つである。上野市は、「文化薫る歴史のまち」をキャッチフレーズに、上野城、松尾芭蕉、忍者の里を中心としたまちづくり・文化振興を行っており、郷土の伝統的・民俗的な行事や新しい文化行事が目白押しである。市は公民館活動の柱の一つにこれら行事への協力を位置づけている。これは、行事への市民参加を促進し、市民のものとして根づかせるだけでなく、生涯学習活動およびその成果発表の場（これ自身立派な生涯学習だが）として文化行事を積極的に位置づけることになっている。

公民館活動では、中央公民館のほか分館が16あるが、これらは市役所の連絡所を兼ね、その所長

が分館長を兼ねており、ほとんどの場合、地域の団体活動のための集会所として機能しているにとどまっている。しかし、中央公民館によって、上述したような公民館活動が阻まれており、他と比べて、成人・婦人教室、青少年教室は盛況である。特に、各地では人が集まらないという理由で開催されなくなってきた青年学級が健在なのが目を引く。内容は今の若者にマッチするよう英会話教室を中心にして参加者の交流を図るもので、勤労青年男女を対象にするため毎週月曜の19:30~20:40に行われ、盛況である。このほか、成人大学では地域の特性を生かして芭蕉講座と植物講座が、高齢者には趣味講座の「生きがい教室」と教養を学ぶ「悠々大学講座」が用意されている。小学高学年を対象とした「現代っ子教室」という手作りおもちゃなどの講座もある。また、近年の女性学ブームおよびその定着を受けて、消費者教育が内容の「生活講座」と斎王ら古代・平安期の女性像の学習を通して女性としての生き方を考える「ロイヤル講座」とがあり、後者は岸宏子女史という地元文化人を活用して行っている。最後に、上野市には点字図書館があり障害を持つ人の学習保障に力を入れていることは前節においてふれたが、中央公民館講座においても、「ひとみ教室」を開催して聴覚障害を持つ女性の学習を保障し、健常者との交流の場を作り出していることは特筆できる。

生涯学習を支える各種団体をみると、文化協会はかなりの伝統を持ち、しっかりとした活動を展開しているが、構成員の高齢化が進み、中年・若者の取り込みが課題となっている。また、サークル活動もたいへん盛んである。婦人会では、勤労婦人、パート労働に出る婦人が多く、農村部を除いて停滞している。また、ボランティアの登録・活用を積極的に進めている。

この他、上野城や崇廣堂などの文化遺産の保存・修理、俳聖松尾芭蕉生誕の地として芭蕉祭（毎年10月12日）をはじめとする芭蕉顕彰の各種行事、毎年10月23日から3日間行われる関西三大祭の一つである上野天神祭、4月に行われる忍者まつりなどの文化活動も目白押しである。特に、芭蕉祭等の芭蕉顕彰行事は市内はもとより全国から優れた俳句を募集するなど、この行事自身が優れて生涯学習の場であるとともに、こうした晴れの発表・顕彰の機会を創出することで、生涯学習を動機づけ、促進する力となっている。

また、伝統工芸品として伊賀焼・伊賀組紐を産し、伊賀信楽焼古陶館・伊賀くみひもセンターを

中心に、その振興を図っている。こうした展示館もまた、公民館等身近で陶芸や組紐を学習できる施設と機会が用意されていることによって、生涯学習を動機づけ、促進する力となっている。近年、上野城近くにオープンした「だんじり会館」は、上野天神祭のだんじりと鬼行列を常設展示するほか、300インチの3面マルチスクリーンでは上野市の風土と祭りをダイナミックに映し出し、上野市の観光・文化の拠点の一つとなりつつある。

上野市文化会館は、市民が身近に文化に親しむ機会の提供と文化創造の拠点として、市政50周年記念事業として建設されたもので、鉄骨鉄筋コンクリート造2階建て、1,200席の大ホール、楽屋、リハーサル室などのほか、展示室を兼ね備えた多目的室、会議室や展示ホールなどが整備されている。伊賀地域最大の文化会館として多くの文化団体等に広く利用されている。また、隣接するサンピア伊賀（厚生年金福祉施設＝ホテル・テニスコート・プール・アイススケート等を整備）や上野東公園とあわせ、総合文化ゾーンとしての機能を持っている。このほか、近鉄伊賀神戸駅付近にある勤労者研修交流センターもまた、貸館として生涯学習の貴重な場を提供している。

さらに、勤労者の学習保障のための施策として、青年学級（英会話教室）のように夜間参加しやすい時間帯に開設する講座を設置するほか、基本的には、多様な文化施設を用意し、土・日や夜間での利用の便を図り、あわせて自主サークルを育成・支援している。

なお、上野市では、1987年に生涯学習推進のための組織として生涯学習推進委員会を設置した。これは、市長を本部長とし、市長部局課長クラス・教育委員会事務局で幹事（15名以内）が構成されている。地区懇談会を開き、また企業からの聞き取りをするなどして市民の声を反映させる工夫をしながら、現在、「生涯学習推進大綱」（平成7年3月）を検討中である。こうした形で行われる大綱作成作業はそれ自身がそれにかかわるすべての人の生涯学習となり、何よりも啓発にもなっている。市長公室政策課のイニシアティブで精力的に行われているが、住民の学習要求・文化意識を掘り起こしつつ行われているこの作業は、生涯学習を市民と市政にしっかりと根づかせ、住民本位の“まちおこし”につながるものである。また、そうしていくことが求められる。

(3) 名張市の概況

名張市は伊賀・大和の境界における地域経済の

中心地として緩やかに発達し、近年ベッドタウン化して急速な人口膨張を経験している市で、「美しい自然都市・名張一新しいふるさと創造」を目標に、豊かな自然資源を生かして、人と文化が調和し、魅力と活力に満ちた美しいまち、名張の実現を目指して様々な施策を展開している。人口をみると、1954年の市制施行後15年間は3万人をわずかに上回る程度であったが、桔梗が丘、つつじが丘、その他多くの住宅団地の開発が進み、また蔵持、八幡の両工業団地の造成と工場誘致により、1990年には7万人を越え、その後も人口増加は続いている。1993年4月1日現在、面積129.76㎢、人口76,392人の都市である。

名張市の生涯学習施策は大きく分けて、社会体育、図書館、公民館活動の3つからなっており、そのどれもが充実した施設で展開されている。

<社会体育（生涯スポーツ）の振興>

市民のスポーツと憩いの場として、総合体育館、野球場、テニスコート、プール、陸上競技場、ゲートボール場を備えた名張中央公園があり、年間を通して広く利用されている。また、中央公園に隣接する国史跡に指定されている夏見庵寺を、誰もが身近に故郷の歴史や伝統的な文化と触れ合える「ふるさと歴史広場」として整備し、中央公園一帯が市民のスポーツ・文化・余暇活動の場、憩いの場・交流の場として提供されており、図書館・公民館と並ぶ生涯学習の一大拠点となっている。このほかの施設として、ソフトボール場・テニスコート・ゲートボール場などをもつ鷹原公園やつつじヶ丘公園、南町の柔剣道場、八幡2号公園運動場（サッカー場を含み、夜間照明も完備）、育蓮寺C地区のテニスコートがあり、さらに、小・中学校の開放を通じて、市民のスポーツ要求に応えている。このうち、名張小、赤目小など5校には夜間照明が設置されている。こうした施設の整備や学校施設の開放に加え、スポーツ教室の実施やクラブ・サークルの育成、体育指導者バンクの強化などに努めている。この指導者バンクでは、スポーツリーダーを子供会や婦人会、老人会、PTA、さらには公民館講座などに派遣している。また、10月10日の体育の日には「体育フェスティバル・明日をきずく名張市民の健康展」と題した市民参加のまつりを行っている。

<図書館>

名張市立図書館は施設・活動において、目を見張るものがある。鉄筋鉄骨コンクリート2階建て、カルチャーパークの中にあって、閑静で美しい自然に囲まれて存在している。子どもの目線で考え

た児童書コーナー、ミニステージ風のおはなし室、目の不自由な人のための対面朗読室、グループ学習室に、ゆったりとした読書席、和室もあって畳の上での読書も可能、CDやビデオも鑑賞できる。郷土資料室も充実している。また、郷土が生んだ江戸川乱歩の作品や彼に関する資料が並ぶコーナーもある。図書館まで足を運べない人のために、1972年より移動図書館「やまなみ号」が市内22ステーションを回っている。

幼児対象の「おはなし会」から、小・中・高校生対象の「ちびっこ映画会」、「動植物同定会」（採集した標本の名前を調べる会）、「星座教室」、「郷土かるた大会」、「郷土学習相談室」、大人の「名作映画鑑賞会」「古文書研究会」「そみの会」など、知の集積としての図書館の機能を活かした多種多様な行事が開催されている。このうち、「そみの会」は、名張市の歴史や民俗を学ぶ会として図書館が主催し1988年より活動している読書会の一つで、現在60名余りの会員を擁している。活動内容としては、毎月1回の定例学習会の開催や現地見学、バスによるフィールド学習等を実施し、郷土に関する様々な研究を行っている。その成果は、毎年秋に開催される図書館行事の一つである「郷土資料展」で発揮され、好評を博している。また、幼児対象の「おはなし会」は、ボランティアによって支えられており、1992年8月から活動を開始して、現在22名の協力会員がいる。

<公民館活動・文化活動>

市民文化においては、市民が豊かな人格を形成し、より健康的で文化的な生活を営むためには、市民自らの活動が大切であるとの立場から、各種公民館活動やサークル、婦人学級、高齢者教室などの育成に努めている。また、優れた芸術を享受し、創作活動にも参加できるように、文化団体の育成、講演会や展覧会も行っている。13ヶ所の各地区公民館や青少年センターは、これらの文化活動の中心施設として重要な役割を果たしている。

名張の公民館活動は、学級・講座においても自主サークルにおいても活発で、古くから社会教育の分野では全国的に有名であるが、市は公民館を「コミュニティ広場」「生涯学習の拠点」と位置づけて様々な学習援助活動を行っている。中央と地区公民館で開催される学級・講座は合計71講座、参加者5,633人で、自主サークルは228団体4,316人にのぼる。

中央公民館では、より高度なものを中心に企画され、三重大学などの大学教授を中心に専門家が

講義する「市民大学講座」、土曜日に開催される「おとこの料理教室」などを開催している。

各地区館では、それぞれの実情に応じて、家庭教育学級、婦人学級、中年（実年）学級、高齢者学級を開催している。赤目地区の実年学級は、50代、60代の男性を対象にして、平日の夜8時～10時に開催され、年10回で、郷土の歴史学習・税金の話・陶芸・健康教室・社会見学などの内容をこなしている。また、箕曲地区のぶどう教室は、趣味の園芸教室の一つだが、館長が青蓮寺に有する自分のぶどう園を開放して手ほどきしてくれるもので、日曜日に開催されるため、男性や就労者の参加が多い。また、体育課主管だが、就労者の愛好が多いバドミントン教室は平日の夜（7時～9時）開催され、多数の参加者がある。

<生涯学習フェスティバル等、イベント>

1993年度で既に23回を数えた市民文化祭（10～11月に公民館、図書館、青少年センターにおいて実施）、1～2月には公民館活動の学習発表会として公民館まつりが行われそれぞれ盛況であるが、さらに1993年2月末を第1回として、土・日の二日間の日程で巨大イベント「生涯学習フェスティバル」が開催されるようになった。こうした様々なイベント、まつりは、それ自身が生涯学習であるだけでなく、これを通して広く市民一般に生涯学習への体験的啓発を行うとともに、発表の場を提供することにより意欲づけを行うなどの学習支援としても機能している。

<生涯学習推進組織・体制>

1989年に生涯教育推進委員会が教育委員会内につくられたが、社会教育委員と重複するため機能しないまま立ち消えとなり、社会教育委員会議の報告書として「生涯学習基本構想」が出された。現在これに基づいて活動していることになるが、その内容は「第2次公民館整備計画」と重複するところがあり、担当者の意識では「基本構想」の観点では動いていないという。

社会教育課は生涯学習課と名称変更しているが、重要なのは、呼称ではなく中身で、生涯学習としての体系化・系統化である。名張市では、社会体育・社会教育が活発になされているが、体系化・系統化があまりなされていないとの印象を受ける。今後、住民の学習要求により効率的に応えるためにも、この点の改善が求められよう。

また、「学習参加者の広がりが少ない」との悩みがアンケート調査に対して寄せられたが、イベントコンサルタントに依頼した巨大企画だけでなく、住民に密着した小企画を充実させ、住民の学習要

求の掘り起こしを大事にすることも必要であろう。

(4) 阿山町の概況

「伊賀米」の主産地として知られる農業を基幹産業とした町で、面積72.97km²、人口8,541人である。人間性豊かな町づくりを町の基本方針に掲げ、教育振興に力を入れている。

“人づくり”を町政の基本としているだけに、家庭・学校・社会教育の総てを結ぶ町ぐるみ教育推進に努めている。社会教育にあっては、生涯学習の観点から、幅広い公民館活動を軸に、学習機会の提供や指導者育成等に努めている。しかし、生涯学習の推進にあたっては、推進組織の確立、基本方針の策定といった基盤整備そのものが課題となっており、担当者にも自覚され、鋭意努力されているところである。

中学校1、小学校4（組合立1を含む）、公民館（社会福祉センター併設）1、町立保育所4、海洋センター（体育館、プール）といった施設を有している。公民館を中心に行われている学級・講座を列挙すると、子どもチャレンジ教室（月1回）、家庭教育学級（愛&I）（月1回）、末広学級（町外の歴史探訪）があり、サークル・教室では、女性コーラス、レザークラフト、ちぎり絵、書道、囲碁、木彫り、生花、日本舞踊、俳句、大正琴などがある。社会同和教育にも力を入れており、社会人向けの連続講座を毎年開催している。文化講演会、町民展、ふれあいまつり（町民文化祭）といった機会を通じて活動の発表の場の提供、活動の裾野を広げようとしている。

現在さらに整備拡充が進んでいる阿山町運動公園は総面積11.1haで、多目的グラウンド、テニスコート、サッカー場、ゲートボール場、野外サーキットコース、体育館、プール、艇庫などが整備され、各種スポーツ行事をはじめ、町の様々なイベントの場として活用されている。また、各種スポーツ教室も開催され、人気を呼んでいる。

さらに、ふるさと森も現在造成中で、歴史資料館をメインに、キャンプ場、研修室、野外劇場などが設置される予定である。

第3セクターとして成功している「モクモク」が体験コーナーなどを設けて活況を呈し、競合する部分が出始めているが、教育委員会社会教育課では協力体制を模索しようとしている。

(5) 伊賀町の概況

米作り中心の農村地帯から昭和40年の名阪国道

開通を境に企業立地が増加し、農工調和のとれた町になりつつある、面積62.01km²、人口11,260人、世帯数3,053戸の町である。

小学校3、中学校2、高等学校1、保育所4、老人ホーム及び公民館、人権センター等、教育社会福祉施設の充実がなされている。平成4年4月にスポーツセンター（ナイター設備が完備された多目的グラウンド、テニスコート5面、ゲートボール場、遊具の芝生広場）が完成し、平成6年度はふるさと会館「いが」が完成し、町民の文化、芸術活動の拠点となっている。また、人権センターは教育集会所・隣保館・児童館を統合し、人権を確立する学習に活用されている。

バイタリティ溢れるやり手の教育長を先頭に生涯学習に力を入れており、町を挙げて本を読む運動を展開している。小さな町のため図書館がないが、公民館図書室に3万冊の蔵書を目標に増やしており（現在約1万冊）、巡回図書を強化している。

公民館は土足のまま上がれるところというキャッチフレーズで設置運営してきており、気楽で使いやすいところとなり、文字どおり話が溢れるところになりつつある。余暇利用・生涯学習の要望を満たすため、公民館が主催する学級・講座はもとより、各種文化団体の育成強化に努めている。公民館教室は生きがいを見つける講座という位置づけがなされ、小学生向けから高齢者向けまで11講座用意されており、夜間の部（午後8時～9時30分）も一部ではあるが用意されており、勤労者の学習の便を図っている。また、公民館サークルを文化協会として組織して活動の援助を図っているが、現在29の自主サークルが活動を展開している。

スポーツ活動では、9種目について協会があり、日常活動を展開している。スポーツ愛好会は、ゴルフ、3B体操、ソフトテニスの3分野であり、少年少女スポーツ教室も5種目で教室が開催されており、それぞれで男女ともに開催されている（混成を含む）。

「伊賀町の二十一世紀を考える会」は、平成2年に発足、町内各界各層で活躍している町民代表50人の委員等で構成する委員会で、各班長を中心に3分散会に分かれ、地域づくり、福祉、生活環境問題などのテーマを調査・研究・討議しているほか、「まちづくりは、人づくりである」という考えにたって講演会を主催するなど、人材育成についても自主的な活動を行っている。

また、出前講座も検討しているが今のところ実

現できていない。とにかく、何もかも教えるというのは避けて、あくまで介助役に徹しようという姿勢で教育委員会は生涯学習に取り組んでいる。これは社会教育基本法の本質そのものであり、今日の住民サイドからの生涯学習を考えると行政が立脚すべき視点ではなかろうか。意欲と思考・志向では先進をいく活動している伊賀町がきっと近い将来何らかの花を咲かし、実を結ぶに違いないと感じられるものがあった。

とはいえ、農業主体の小さな町であるので、生涯学習の活性化のためには指導者・講師の発掘養成が決定的であり、行政も力を注いでいる。現状では大阪を中心とした関西とのつながりが強く、そこから講師を調達している現状であるが、旅費・講師料の点などで悩みがある。

(6) 大山田村の概況

県の西部、伊賀盆地の最東端に位置する四方を山に囲まれた東高西低の内陸盆地型の純農村で、東部が山林地帯、西部が田園地帯となっている。面積95.98km²、人口6,267人、世帯数1,630戸で、耕地面積は1割弱、8割強を山林が覆う村である。基幹産業は農林業で、名実ともに農林業の村として成長を遂げてきたとの自負が村行政にはある。

大山田村では村づくりのテーマを高く掲げ、村づくりを進めている。そのテーマとは、「文化ストック化するMURAおおやまだーさらに豊かに、田園みらい21ー」である。新しい村づくりとして、平成2年度には「おおやまだ田園未来21塾」を設置した。この組織は、農業従事者22名をメンバーとするもので、農業農村活性化構想「元気のでる、農業農村活性化プラン21」を提言するとともに、「どろんこ田植え」などのミニイベントを開催し、みんながイキイキとして取り組み、かつ元気がでる農業・農村づくりをめざして、村の活性化をリードしている。

また、大山田らしさを全面に出した地域づくり構想として、「RUN・らん・ランド』おおやまだ/RUN・LEARN・LAN・DO』OYAMADA」をコンセプトとして設定し、大山田ふるさと創生資金を発展的に解消した「ゆめさき基金」（5億円目標）を活用して、コミュニケーション施設「村立国際風呂ペンションセンター」などのユニークなイベント、景観整備事業を展開しつつある。これらの施設が生涯学習の場として活用されることが期待されるほか、こうした創意工夫あふれる取り組みそのものが優れてこの村の生涯学習運動となりつつある。

小学校2、中学校1、保育園2、中央公民館1、公民館分館23、農村環境改善センター（コミュニティセンター）、生活改善センター2、郷土資料館が整備され、B&G海洋センターをも活用して、地域住民一人ひとりが創造性豊かな人間性と主体性ある行動力を持ち、より文化的で豊かな住みよい地域にするため“生き甲斐ある文化的な村づくり”を目標に、総合的な人づくり対策が積極的に実施されている。

シベリアなどから渡ってきた冬鳥たちでいっぱいになり、バードウオッチングで賑わう真泥池を活用して、真泥池ふれ愛ハートランドづくりを進めており、既に野鳥の森がオープンし、グリーンコンサートなどのイベントも開催された。四季を通じて自然観察や森林浴が楽しめる、自然と人間がふれあう場として整備されてきている。

大山田村では、近年、過疎化、高齢化の進展の中で幾多の困難を抱えているが、限られた予算・スタッフの条件下で知恵を絞り、生涯学習振興をめざしたイベントを開催し、旧来の社会教育を再編し、活性化させようと様々な工夫を凝らしてきている。公民館の外国語講座に交流を兼ねて企業から講師を派遣してもらった活動などもその一つである。

(7) 島ヶ原村の概況

平城の昔から島ヶ原として1,200年以上続いている伝統ある村で、三重県の西玄関として京都・奈良・滋賀の三県と接する所にあり、大阪経済圏との交流も盛んで、小村ではあるが明治22年の町村制施行以来、独立村として堅実な歩みが続いている農林業を主体とする農村であるが、経営規模は小さく会社・官公署への勤め人が多い。村収入の約8割が勤労所得である。村の面積22.95km²、人口2,968人、世帯数792戸である。

「村の発展は人づくりにあり」を村政の重点として、長年にわたって積極的な財政投資を実施してきた結果、教育環境は充実している。児童・生徒の育成面では、PTAの積極的な協力の下で、学校・家庭・地域社会が一体となって、教職員を先頭に小規模ながら特色ある学校づくりを推進している。また、社会教育面では、人生80年時代における生涯学習という視点から、幅広く各年齢層にわたって公民館活動を積極的に展開し、各種教室（7教室）、各種学級（2学級）、文化サークル（19グループ）等、充実した展開を見せている。その他生涯学習の新機軸として、親子セミナー（0～3歳児対象）、島ヶ原村むらおこし塾の創

設、年輪の集い（40・60歳対象）、コンピュータ初級講座（一般社会人対象）等、特色ある事業として長期展望にたった人材育成に取り組んでいる。

地域づくり推進事業と関連して注目すべき生涯学習事業として「むらおこし塾」がある。ふるさと創生企画調整委員会の討議で生まれた人材育成事業として、村をもっとよく知りたい、村を少しでも楽しいものにした、そんな思いにかられた20代～40代の青年20数名を募集し、2ヶ年を履修期限として取り組んでいます。村の現状や課題を学習したり、各界の講師を招聘しての講演会などを重ね、塾生独自の企画による風ごもりといったユニークなイベントなど多彩な催しを展開し、機関誌「しまとびあ」も発行しています。

また、鯛ヶ峰地区には、木津川沿いの約10haに、芝生広場やオートキャンプ場、カヌー広場を整備し、あわせて村の情報発信基地として多彩なイベント・講演会を行える施設として「村民ふれあいの里」が整備され、生涯学習振興に寄与している。

⑧ 青山町の概況

青山町は基幹産業である農林業を中心に、かつて伊勢参宮街道の宿場町として栄えた阿保地区の商工業で成り立っている町で、町全体の80%を山林面積で占めている。福祉施設、文化スポーツ施設、圃場整備、木材原木市場などの整備を遂行し、青山高原を中心とした観光開発など、新しい町づくりと人づくりに力を入れている。面積109km²、人口11,513人、世帯数3,200戸。

小学校5、中学校1、私立高校1、公民館1、青山ホール1、文化センター1、健康管理センター1、保育所5、私立幼稚園1といった生涯学習関連施設がある。平成6年度には、町民の自主的な芸術・文化活動の進展と町民の文化振興を目的とした、多目的施設を有する青山ホールがオープンした。また、町民の生活文化向上のため、各地区の生活改善センター、公民館などの新改築を推進している。

平成3年度から事業を進めてきた青山町屋外運動場（町民グラウンド）は、余暇活動志向、長寿社会を反映した健康づくりへの関心の高まりに対応するとともにスポーツを通してのコミュニティ強化を図ることを目的としたもので、近々完成の予定である。同施設は、青山町の自然環境を利用した運動公園整備構想の一環としてつくられ、2haの多目的広場の周囲には散策道が設けられ、憩い

の場として活用されることを町では見込んでいる。

また、青山高原を活用した各種スポーツ・文化行事を行っているほか、「青山町ふるさと創生委員会」を設置するとともに、町民・職員からのアイデアを募集して、「豊かな自然との中で培われた文化を生かし、自然文化を考えるにふさわしい施設整備のためのエリアを確保すべし」との提言を受け、その結果、「青山町ふるさと創生基金」を設置して、町の資源である森林を活用した地域づくりを進めている。

しかし、次のような問題点も寄せられている。担当職員が十分でなく、予算も限られているため思うような企画ができない。公民館講座で参加者が固定化してしまい、どう打破していくのか課題である。婦人会等の関連団体の活性化をどう図るかなど。

⑨ 生涯学習推進状況に関するアンケート調査の結果

1. 生涯学習推進のために設けられた特別の組織

ある 上野市：上野市生涯学習推進委員会

時期：昭和63年

機能：推進方策の策定。

名張市：名張市生涯教育推進委員会

時期：平成元年

機能：（現在休止中、再編を検討中）

阿山町：公民館運営審議会、社会教育委員会

時期：昭和30年

機能：関係機関の連絡・調整。啓発。推進方策の策定。

青山町：社会教育委員会

時期：昭和30年

機能：推進方策の策定。

大山田村：社会教育委員会

時期：未回答

機能：未回答

なし 島ヶ原村、伊賀町

2. 生涯学習推進に重要な役割を果たしている施設

【上野市】公民館、図書館、文化会館、体育館

【名張市】公民館、図書館、文化会館、集会所、体育館、屋外スポーツ場

【阿山町】公民館、体育館、屋外スポーツ場

【伊賀町】公民館、文化会館、青少年センター、集会所、体育館、屋外スポーツ場、野外キャンプ場、小中学校、高等学校

【大山田村】公民館、資料館、体育館、小中学校、
その他公立施設（農村環境改善センター、B
& G 海洋センター）

【島ヶ原村】公民館、福祉センター、体育館、野
外キャンプ場

【青山町】公民館、集会所、体育館、小中学校

3. 生涯学習推進上の重点施策（5つまで）

【上野市】未回答（項目6参照）

【名張市】

- ②生涯学習関連施設をさらに整備
- ⑦生涯学習の重要性について、住民に対する啓発
- ⑧婦人会等の団体活動の活性化
- ⑬世代間交流を促進するようなプログラムを用意
- ⑮学習情報提供の充実

【阿山町】

- ①生涯各期にわたる学習プログラムの用意
- ⑤高齢者の生きがいに重点おいた学習プログラム
- ⑥学校教育と社会教育の有機的連携
- ⑨生涯学習の観点から他部局との連携、生涯学習
関連事業を合理的に推進
- ⑩施設の利用時間の弾力化。受講生が受講しやすい
時間に講座を開講

【伊賀町】

- ⑥学校教育と社会教育の有機的連携
- ⑧婦人会等の団体活動の活性化
- ⑩施設の利用時間の弾力化。受講生が受講しやすい
時間に講座を開講
- ⑪住民の学習要求を調査を通じて捉え、それに対
応したプログラムを用意
- ⑮学習情報提供の充実

【大山田村】

- ①生涯各期にわたる学習プログラムの用意
- ④過疎化への対応として、地域の活性化を図る事
業を用意
- ⑤高齢者の生きがいに重点おいた学習プログラム
- ⑩施設の利用時間の弾力化。受講生が受講しやすい
時間に講座を開講
- ⑮学習情報提供の充実

【島ヶ原村】

- ②生涯学習関連施設をさらに整備
- ③推進組織を確立し、基本的方向性を検討
- ⑥学校教育と社会教育の有機的連携
- ⑮学習情報提供の充実
- ⑰指導者の発掘・育成

【青山町】

- ①生涯各期にわたる学習プログラムの用意
- ④過疎化への対応として、地域の活性化を図る事

業を用意

- ⑤高齢者の生きがいに重点おいた学習プログラム
- ⑥学校教育と社会教育の有機的連携
- ⑧婦人会等の団体活動の活性化

4. 生涯学習推進上の障害・問題事項（3つまで）

【上野市】未回答（項目6参照）

【名張市】

- ⑤担当職員が少なく、十分な企画ができない
- ⑨住民が急増し、多様化する学習要求にできてい
くのが難しくなってきた
- ⑩県の研修会等に出席したくとも、遠方のため、
旅費や時間的な制約が著しい

【阿山町】

- ①生涯学習関連施設が少ない（老朽化している）
- ③講座や学級への参加者が固定化している
- ⑤担当職員が少なく、十分な企画ができない

【伊賀町】

- ①生涯学習関連施設が少ない（老朽化している）
- ⑪生涯学習推進のための予算が少ない
- ⑫生涯学習推進の基本方向がまだ定まっていない

【大山田村】

- ③講座や学級への参加者が固定化している
- ⑥生涯学習推進の全庁的な合意が得られず、専ら
教育委員会事務局の負担となっている
- ⑧住民が高齢化し、学習プログラムに偏り

【島ヶ原村】

- ③講座や学級への参加者が固定化している
- ⑤担当職員が少なく、十分な企画ができない
- ⑥生涯学習推進の全庁的な合意が得られず、専ら
教育委員会事務局の負担となっている

【青山町】

- ③講座や学級への参加者が固定化している
- ⑤担当職員が少なく、十分な企画ができない
- ⑪生涯学習推進のための予算が少ない

5. 近い将来に実現が予定されていること

【上野市】未回答（項目6参照）

【名張市】公民館の新築、改修。生涯学習指導者
バンクの設置。住民意識調査の実施。

【阿山町】予定されていることは特にない

【伊賀町】公民館の改修。図書館の新築。町民体
育館・プールの新築（平成10年予定）。歴史
資料館の新築。

生涯学習推進組織の設置（平成7年6月頃）。
生涯学習指導者バンクの設置。

【大山田村】教育集会所の設置（同和教育推進）

【島ヶ原村】予定されていることは特にない

【背山町】運動施設の新築、改修

6. 生涯学習推進について日頃からお考えのこと 【上野市】

「上野市生涯学習推進大綱」（平成7年3月予定）を策定中で、すべての施策を再検討中である。

【名張市】

当市は伊賀の南部に位置し、近鉄大阪線を利用した京阪神への通勤圏内にあり、住宅地開発により、人口増加が著しく、公民館、図書館、体育館等生涯学習施設及び学校の体育館、運動場の開放による利用も年々増加しています。このような状況の中で、勤労者の大半が大阪を中心に市街に通勤している点、青年団活動の衰退等により、成人男性の学習活動がスポーツ活動に集中していること。公民館活動においても活発でありながらも学習課題のマンネリ化ができてきていること等から、今後、住民の学習ニーズを把握し、要求する課題

や現代的課題の学習の場を提供するとともに、情報発信提供の方法、近隣市町村との連携などを整備改善していかなければならないと考えます。

【伊賀町】

阿山郡内の各町村及び上野市では、各々公民館教室をはじめ各種講座等の運営を行い、生涯学習推進に力を注いでいるが、予算・指導者等の関係から実施される企画は、内容や数に必然的に制約があり、多様化した住民のニーズに十分応えられない。そこで、住民がいつでも自分の希望する内容の学習を受けられるため、近隣市町村間の情報のネットワーク化とその活用が望まれる。

【大山田村】

成人男子を社会教育の場に参加してもらうことがたいへんむずかしい。公民館教室の在籍を5年として運営しているが、原則の5年を適用すると教室が成り立たないものができたりする場合があること、また、5年経っても在籍の希望が多い。

カナダからの便り

東福寺 一郎

筆者は現在、在外研究員としてカナダ、ヴィクトリア市に滞在している。筆者の本来の専門である認知心理学（とりわけ記憶研究）と地研で長年携わっている生涯学習の接点を求めるべく、ヴィクトリア大学で「加齢と認知（記憶）」をテーマに今秋まで研究を続ける機会を与えられた。まだ滞在3ヶ月であるため、さしたる研究成果があがっているわけではなく、それについては別稿に譲るとして、本稿ではこれまでの短い滞在生活の中でヴィクトリア市から学んだことの一端を紹介しようと思う。あくまで筆者の主観であることを初めにお断りしておく。

カナダには12の州（うち2つは準州）があり、ヴィクトリア市を州都とするブリティッシュ・コロンビア（BC）州は面積94万km²、人口330万人強で、いずれもカナダ第3位である。ヴィクトリア市はカナダの西南端に位置するヴァンクーバー島の最南端に位置し、カナダ国内では最も温暖な都市である。ヴィクトリア市の紹介本によれば、雪は3年に1回位しか降らないとあり、最も寒い1月の平均最低気温が2.1度で、氷点下ではない。市の面積は23.4km²、人口は72,000人程で津市人口の半分に満たない。ヴィクトリアから程近いところに大都市ヴァンクーバー（ヴァンクーバーは

ヴァンクーバー島にはない）があるが、州都の立場を譲らずにいる。三重県の津市と四日市市の関係を彷彿させる。なお、ヴィクトリア市以外に近隣の15の自治体を合わせた広域自治体をグレートヴィクトリアと呼び、面積2,441km²、人口33万人になる。

ヴィクトリアの主産業は観光に関わるものであるが、夏でも平均気温が20℃以下という気候条件のため、退職後の安住の地として国内外から高齢者が移り住んできている。年配のご夫婦が腕を組んで買い物をしたり散歩している姿をよく見かける。店によっては「シニアデー」を設け、高齢者に対する割引サービスをしている。また、65歳以上になるとバス代も普通運賃\$1.35が\$0.90になる。高齢者が多いからではなからうが、カナダ国民あるいはヴィクトリア市民の福祉に対する姿勢には学ぶべき所が多い。何も特別なことではなく、日常のさりげない行動の中に、幼い時から培われたのであろう態度が現れている。例えば、街中や大学のキャンパスで車椅子に乗った人達を非常によく見かける。障害を持った人達が気兼ねなく外出できること自体が、それを可能にする環境条件の整備を証明している。身体障害者のステッカーを貼った車も多いが、バスの時刻表を見ると、低

床式でリフトのついたバスが走るスケジュールが明示されている。さらに、バス会社へ登録さえしておけば、電話一本で特別な小型バスが希望の場所へ車椅子ごと運んでくれる。しかも、その料金はわずか1.75ドルである。もっとも、その分税金は高く、寄付金の募集も多いようだ。子供が通う小学校で年末にあったクリスマスアクティヴィティ(学芸会のようなもの)では、入場料の代わりに、保存可能な食料品を持って行かねばならなかった。

福祉の面では既に触れたが、こちらのバスサービスはたいへんよくできている。BC Transitというバス会社が市内全域をカバーしており、主要路線では夜11時前後まで運行される。バス代は先述した通りだが、乗車時に運転手に申し出ると乗り替え用のチケットをくれる。これがあれば、時間制限はあるが、別の路線バスに1回だけ乗り継ぐことができる。また、日本では定期券は区間限定であるが、こちらのマンスリーパス(月単位のフリーパス)は乗り放題である。料金も45ドルで、

感覚的には日本で定期券を買うよりやや高い程度であろう。もちろん筆者も購入し、大学の他、ダウンタウン等、あちこち出向くのに活用している。三重県でもこのような制度を採用すれば、バス利用客がもっと増えると思うのだが。ちなみに、バスの車内放送は一切なく、降りたいバス停が近づいたら、車内に張りめぐらされているロープを引っ張り、運転手へ合図をする。従って、車内で目をつむったり、ましてや眠りこけている人は見たことがない。バス停の半分以上はポールに“busstop”と縦書きしてあるだけの簡単なもので、当初は降り損ねないよう緊張したものである。でも、バス停の間隔が短い(極端な例だが、筆者が普段利用しているバス停とその直前のバス停は50m位の距離)ので、降り損ねたとしても実害は少ない。バスの運転手に女性の姿を時折見かけることも、男女雇用機会均等の一端を垣間見る思いがする。

(クリスマスの日に自宅にて)

〔 受 入 図 書 一 覧 〕

本研究室で平成6年4月以降に受け入れた図書は次のとおりです。

世論調査年鑑平成5年版	環境白書平成6年版(総説)	環境庁
内閣総理大臣官房広報室	環境白書平成6年版(各論)	環境庁
国民生活選好度調査平成5年度	防災白書平成6年版	国土庁
経済企画庁国民生活局	土地白書平成6年版	国土庁
経済統計年報平成5年	公務員白書平成6年版	人事院
物価指数年報平成5年	通商白書平成6年版(総論)	通商産業省
地方教育費調査報告書平成三会計年度	通商白書平成6年版(各論)	通商産業省
文部省	通信白書平成6年版	郵政省
文部法令要覧平成6年版	労働白書平成6年版	労働省
文部省大臣官房総務課		
通産統計ハンドブック平成6年		
通商産業大臣官房調査統計部		
行政投資平成5年		
自治省大臣官房地域政策室		
生涯学習支援へのアプローチ		
山本恒夫・浅井経子・手打明敏		
産業連関分析入門		
パソコンによるLeontief		
横倉弘行		
問答式 都市計画・開発法規の実務②		
都市計画実務研究会		
問答式 境界・私道等の法律実務①		
境界・私道等実務研究会		
問答式 境界・私道等の法律実務②		
境界・私道等実務研究会		
中小企業白書平成6年版		
中小企業庁		
観光白書平成6年版		
総 理 府		

編 集 後 記

陽光がやさしい。春の次がいつのまにか、天高く馬肥える季節となってしまった。

今号は、昨年10月よりカナダに一年間の在外研修に出かけられた東福寺研究員からの便りと、昨年7月末から9月にかけて東福寺・水谷岡研究員が調査研究を行ったものの報告である。刊行が遅れ、関係諸氏には多大な迷惑をおかけした。記してお詫びする。年度が変わり、地研の体制も変わった。編集子もこれが最後で新任者にバトンタッチする。新体制を告げる号が近々刊行予定である。(水)